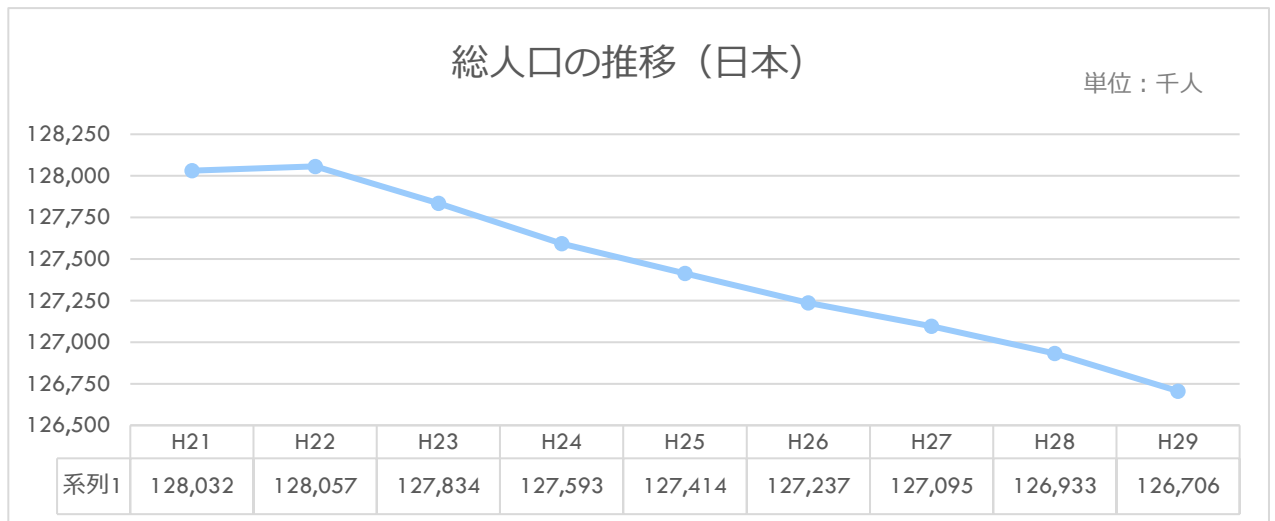


今後、我が国では、人口減少や少子高齢化による労働力の減少や担い手不足が懸念されており、地域に生きる小規模事業者を取り巻く環境はますます厳しくなっていくことが予想されます。

こうした中で、「人材の確保」は経営を続けていくうえで重要な項目です。特に「事業の持続的発展」を踏まえると、新卒採用者や第2新卒者と言われる若い世代の労働力確保が将来の事業運営に大きな影響を与えると考えます。また、本年度実施した経営実態調査においても、新卒採用者を重要視する傾向は高い割合で推移しています。(vol.経営実態調査～人手不足編～)全国や県内、地域の具体的なデータから管内の現状把握と今後の予測を行い、「労働力・新規採用者の確保」について改めて考えてみましょう。

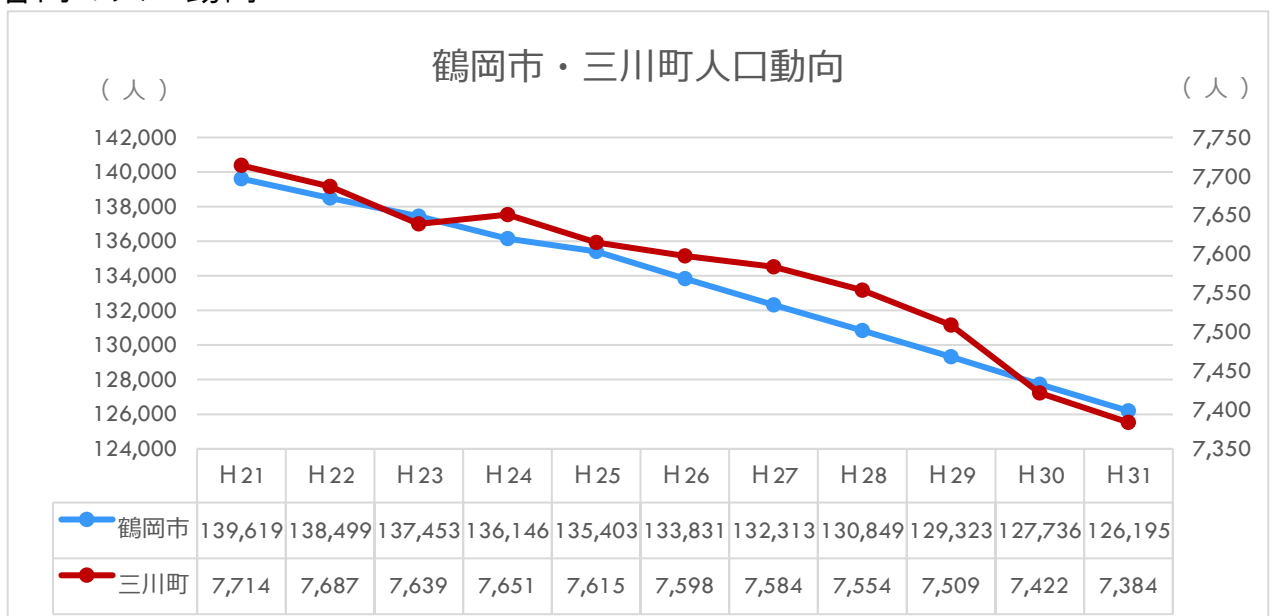
## 1. 人口の動向と労働力

### ① 日本の人口動向



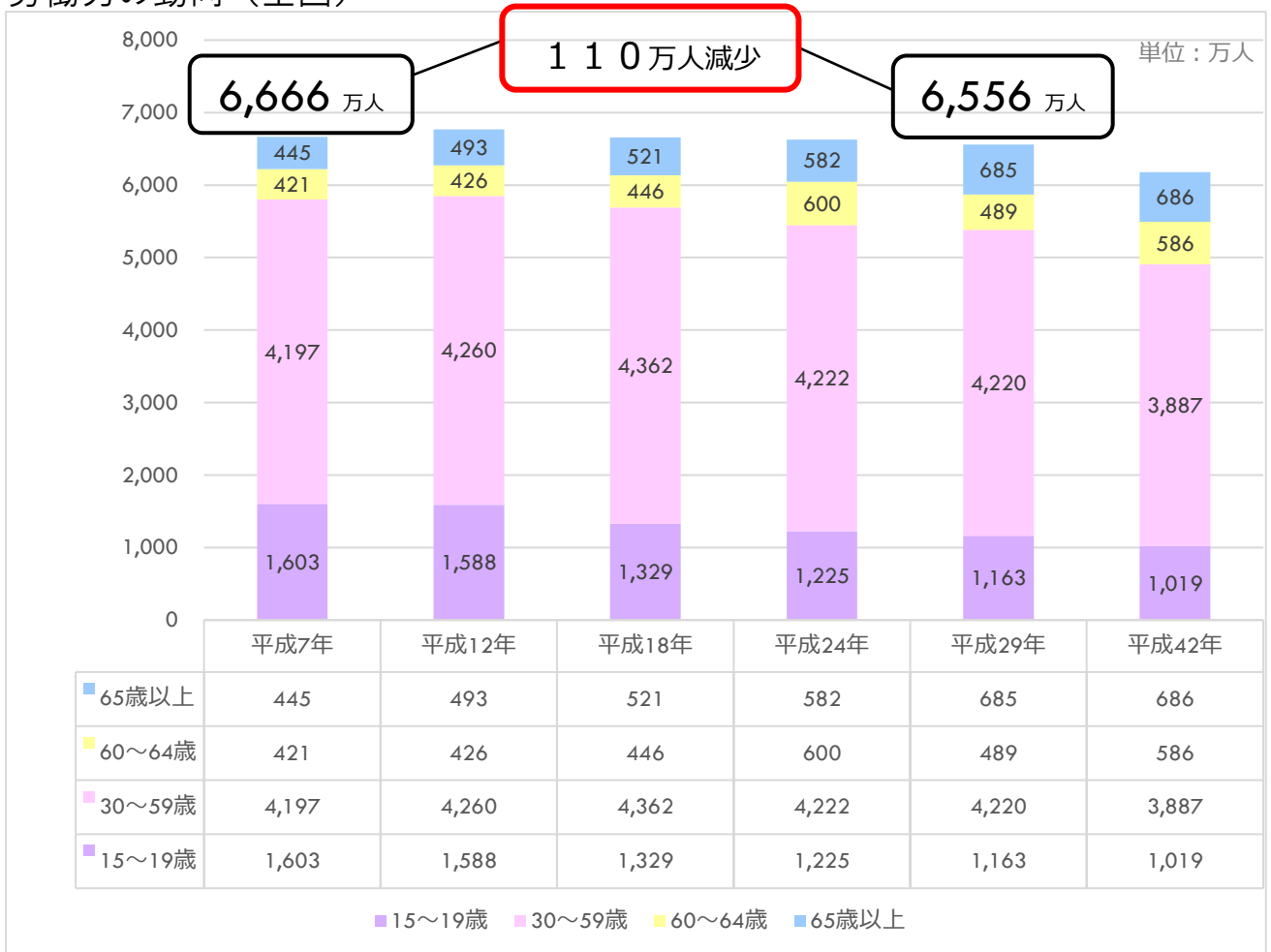
資料：平成 22, 27 年は国勢調査。その他は国勢調査人口を基礎とした 10 月 1 日の推計人口（総務省統計局）を加工して作成

### ② 管内の人口動向



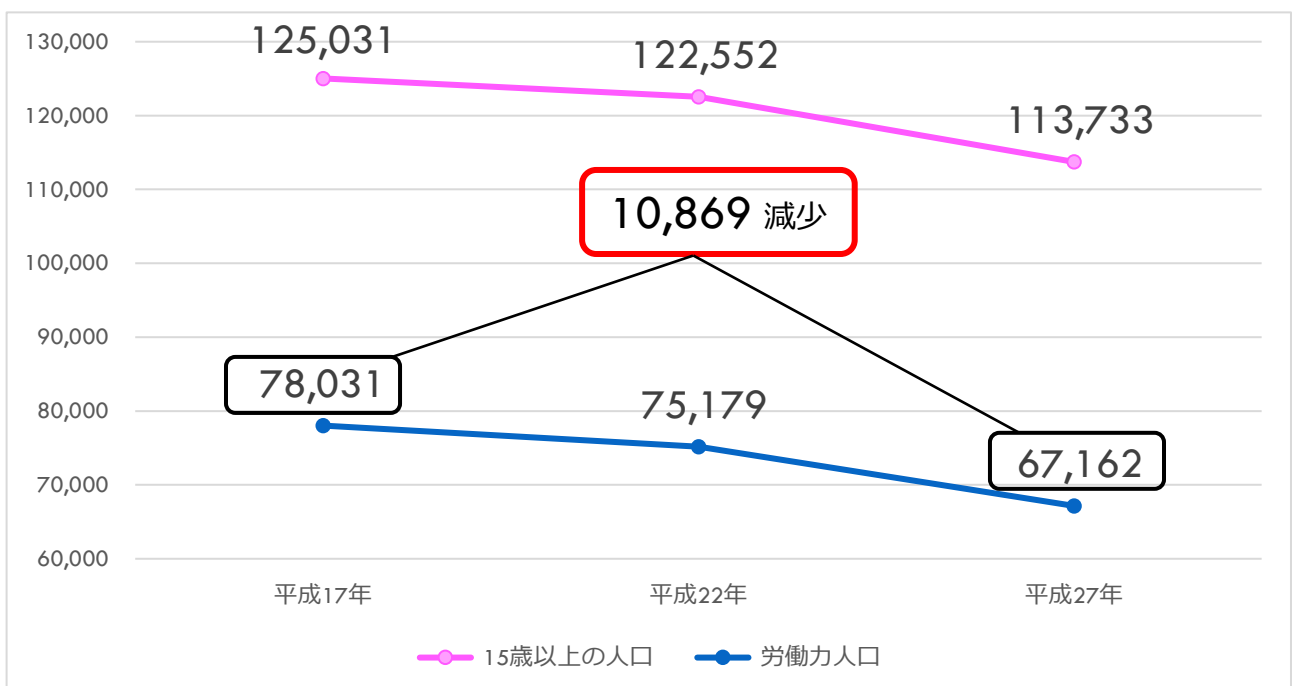
資料：鶴岡市・三川町（各年 3 月末現在）公表資料を加工して作成

③ 労働力の動向（全国）



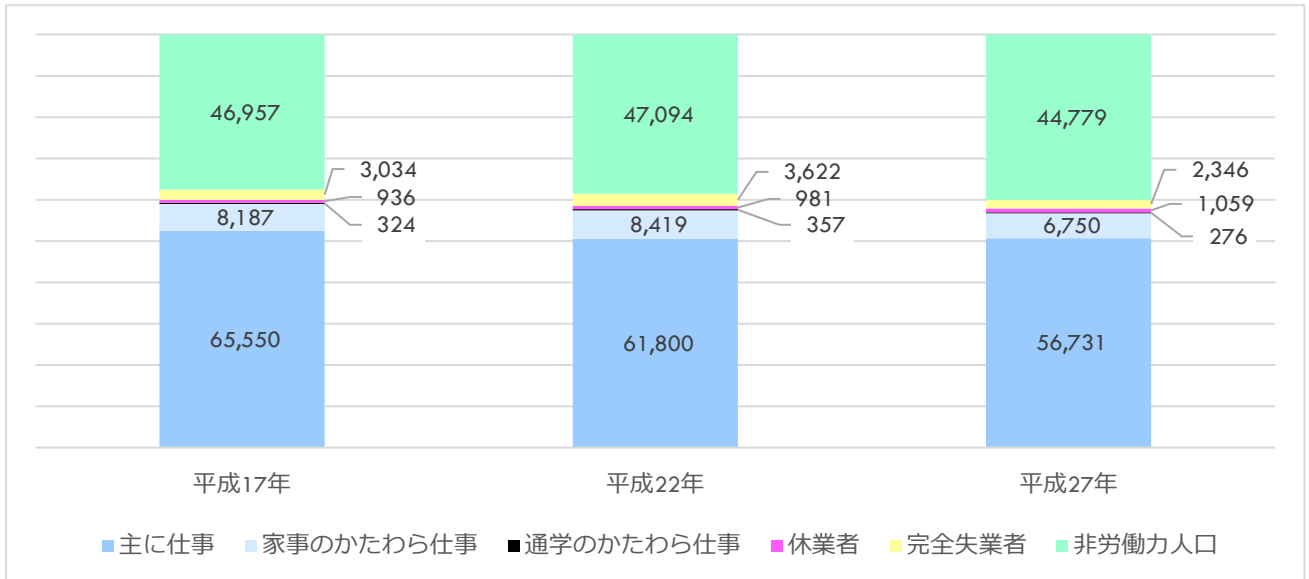
資料：厚生労働省 労働経済の基礎資料を加工して作成

④ 労働力の動向（鶴岡市）



資料：鶴岡市の統計書（平成17年・22年・27年）を加工して作成

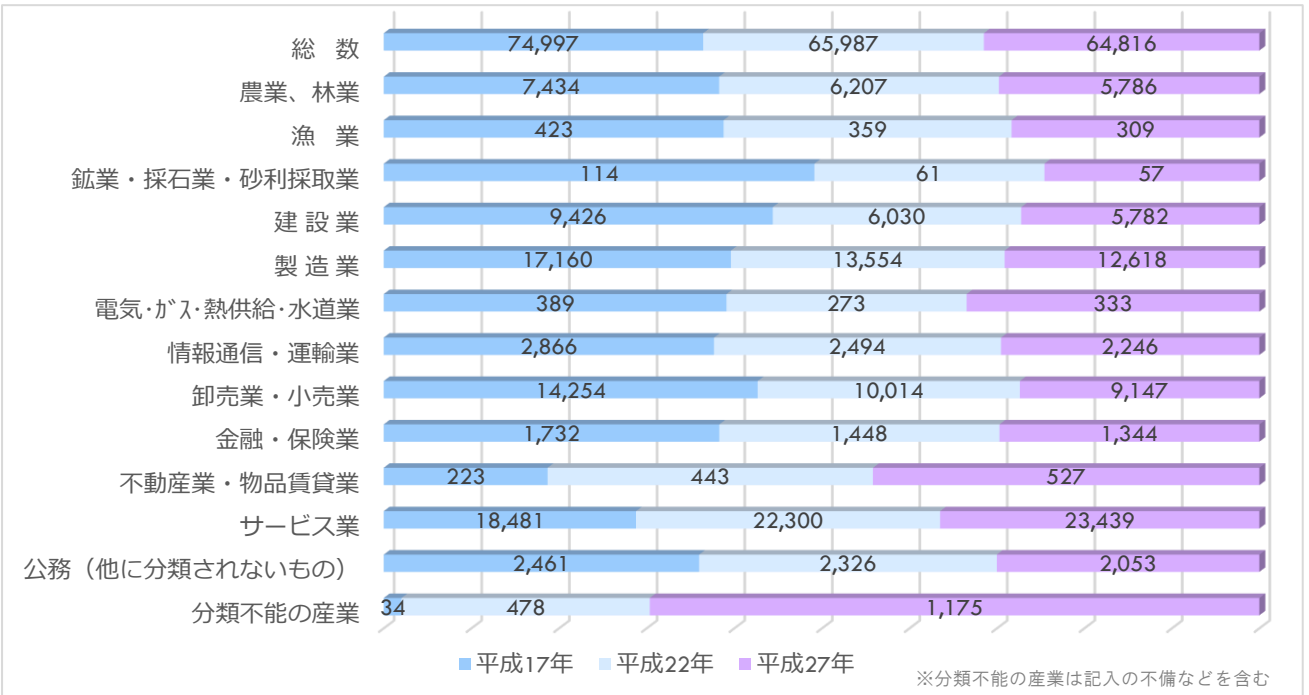
⑤ 労働力の内訳（鶴岡市）



資料：鶴岡市の統計書（平成17年・22年・27年）を加工して作成

国内も深刻な人口減少となっていますが、管内でも人口の減少は深刻です。人口減少と比例して労働力も減少しており、全国では平成7年から平成29年の22年間で約110万人（98.3%）、管内では平成17年から平成27年の10年間で約1万人（86%）の労働人口が減少しています。

⑥ 業種別労働者数の推移（鶴岡市）



資料：鶴岡市の統計書（平成17年・22年・27年）を加工して作成

管内労働人口を業界別にみると10年間で鉱業・採石業・砂利採取業（50%減）、建設業（39%減）、卸売・小売業（36%減）が大きく減少しています。設備の生産性向上や機能面向上による影響も大きいと考えられます。一方で不動産・物品賃貸業304人（236%）、サービス業では4,958人（127%）労働人口が増加しています。

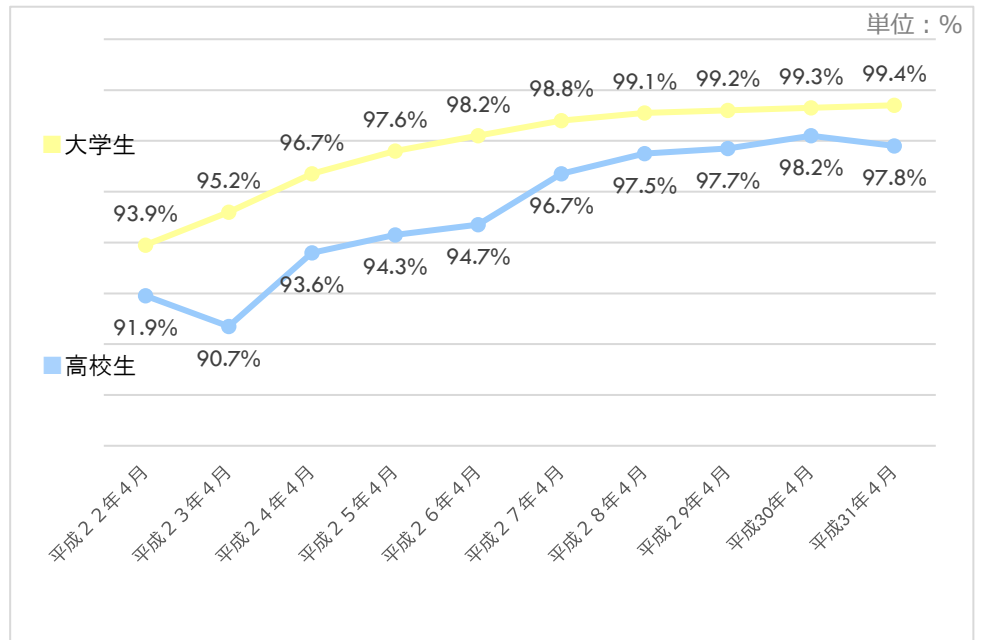
## 2. 新規採用者の確保

### ① 新卒者就職率（全国）

—参考資料—  
平成31年3月  
高等学校卒業者の就職状況

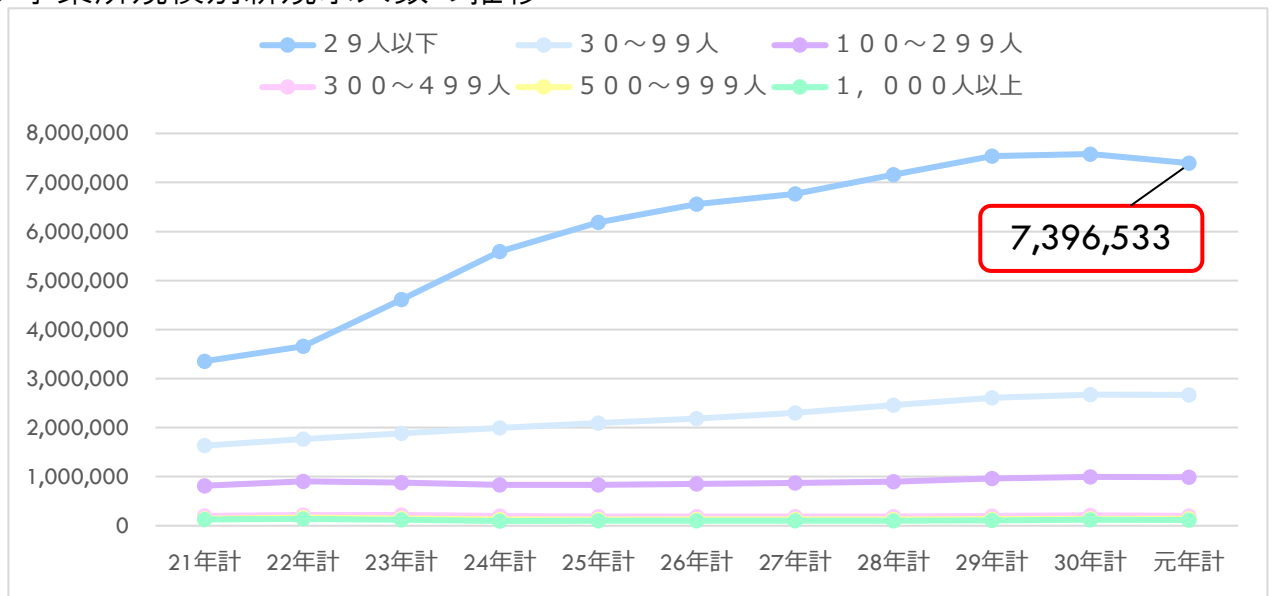
卒業者	1,056,847 人
就職希望者数	187,342 人
就職希望率	17.7 %
就職者数	183,891 人
未就職者数	3,451 人
就職率	98.2 %
前年同期比就職率	98.1 %
前年同期比増減	0.1 %

就職率推移表



資料：厚生労働省 大学、短期大学及び高等専門学校卒業者の4月1日現在の就職状況調査の推移  
高校・中学新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職・就職内定状況の推移を加工して作成

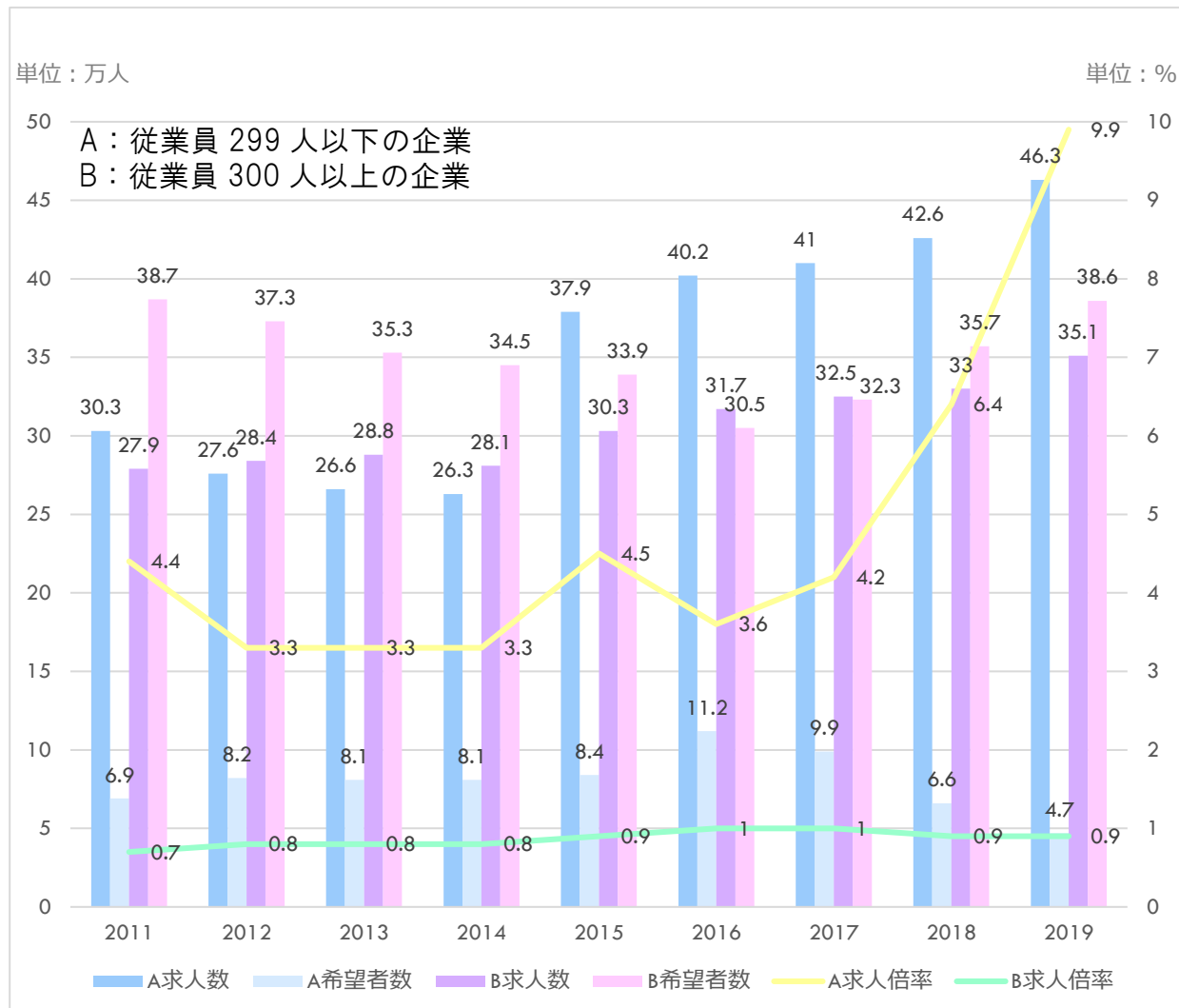
### ② 事業所規模別新規求人数の推移



資料：厚生労働省 一般職業紹介状況を加工して作成

300人以上の事業所についてはほぼ横ばい、30~299人の事業所については緩やかな上昇傾向に留まっているのに対し、29人以下の事業所に係る求人数については平成22年以降、30人以上の規模の大きな事業所に係る求人数と比較し大幅に増加していることが分かります。

## ③ 従業員規模別の大卒予定者の求人数・就職希望者の推移



従業員 299 人以下の企業の大卒求人数は年々増加しており、求人倍率も 2017 年の 4.2 倍から 2019 年 9.9 倍と上昇しています。新卒者においては待遇や福利厚生面などを重視する傾向が高く、従業員の少ない事業所ほど自社の待遇や福利厚生に関する情報が外部に発信出来ていないと考えられます。

従業員の少ない事業所ほど新卒採用者への需要が高まっていることがわかります。今後も人口の減少に伴う労働人口減少は進み、新卒者を獲得するハードルは少しずつ上がっていくことが予測されます。

出羽商工会でも東北公益文科大学や庄内農業高校と連携し会員事業所の新卒採用者の推進を行っています。興味のある方は是非ご相談ください。